

日本学術会議事務局総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会  
持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会  
(第25期・第5回) 議事要旨

日時：令和4年11月8日(月) 15:00~17:00

開催方法：日本学術会議6階会議室およびZOOMによる参加(ハイブリッド開催)

出席者(会場)：大久保(委員長)、笠、佐々、佐藤智之(幹事)、野村、木戸

(オンライン)：犬竹、岩城、川村(幹事)、小澤、三枝、松島(副委員長)(敬称略)

#### 議事次第

- (1) 新委員の紹介
- (2) 議事要旨確認
- (3) 意思の表出について
- (4) その他

#### 配布資料

資料1：委員リスト

資料2：第4回議事要旨

資料3：意思表出案

資料4：申出書(洋上風力)

資料5：骨子案

#### (1) 新委員の紹介

2名の新委員：三枝俊介氏(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)、横田弘氏(一般財団法人沿岸技術研究センター参与)を紹介。

#### (2) 議事要旨確認

承認された。

#### (3) 意思の表出について

意思の表出案について

- ✓ 来年中頃完成を目途に作成する。
- ✓ 洋上風力開発の状況は刻々と変わる。査読の段階でアップデートしていく。
- ✓ 「地質・地盤災害」、「海底地質リスク」を定義した。ジオハザードは、地質、地盤ともに含む災害と定義し、それが生じる可能性をリスクと定義する。
- ✓ 図1-1は、縮尺合わせ、水深を色分けしたインデックス追加、スケール追加をする。
- ✓ 日本、ヨーロッパの開発状況の図を参考資料として追加する。1週間以内に委員各位が関係する情報を共有。

- ✓ 図 2-1 は、地震のリスクがあるように旧河道の下の断面にも黄色部分を入れること、海底ケーブルをチャンネルや泥濁流に交差させて描くこと、旧河道、デルタなどでも流動するリスクがあるように着床式の数を増やすこと、を盛り込み修正。
- ✓ ヨーロッパでは、氷河の痕跡の正確な分布を知るため 3 次元音波探査を検討しているようだ。「産学官連携の必要性」のところに三次元音波探査の件を入れる。
- ✓ 設置場所のリスクに対しては最適化設計をしているが、海底地すべりや液状化のような面的なリスクについては現場では把握しておらず、全域は見えていない。
- ✓ 津波のリスクは広域データで評価しなければならない。
- ✓ 企業のデータ、セントラル方式で取得されたデータについては制約がある。
- ✓ 既存の探査データのレビューがあれば、コスト削減、工期の削減につながる。
- ✓ オープンデータの充実することによって、産学官体制での研究が促進される好循環が生まれる。
- ✓ オープンデータを増やし、産学官が連携することは、地質リスク評価のひとつの現実的なやりかたである。このやり方は、開発コストを下げることに繋がりなる。
- ✓ 大学に寄付講座を設置するなどの人材育成を行ってきているが、ジオハザードは盲点であった。産学官が連携することにより、ジオハザードを理解した人材を開発事業に取り込むことができる。
- ✓ 産学官連携は、地元の大学が中心となり、地元で活躍する人材を育成することになるので、波及効果として地域活性化につながる。
- ✓ 開発が先行しているヨーロッパではどのような意味で人材育成が入っているのか確認して、人材育成についてヨーロッパと日本との違いを入れる。
- ✓ 地質リスクの重要性について述べられているが、内的・外的リスクの確率論的評価や災害が起こった時のシナリオなどの工学の視点が必要。
- ✓ 「海底地質リスク重要であり、工学につなげていくことが大切」という文章を五章のまとめの最後に追加。

#### 申出書について

- ✓ セントラル調査を担う JOGMEC は来年から予算つくので、そこから参加していただくことにする。
- ✓ 前回のエネルギーと科学分科会での指摘は反映されており、次回 11 月 29 日に開催される分科会に提出。

#### 要旨について

- ✓ 別途作成し、近日中に配布して、意見を募る。